

令和7年3月24日(月)

令和6年度 修了式

あの頃の僕へ

佐賀県立武雄高等学校 下村 昌弘

全校の皆さん、おはようございます。今日は3月24日、学校にとって大きな節目となる日です。一年を振り返って次の一年へ向かう下地を作ってほしいと思っています。

ところで、先々週末になりますが3月15日(土)、私が出演したラジオ番組聞いてくれたでしょうか。武雄高校の宣伝もたくさんしてきました。自分の声が公共の電波に乗るといのは何か落ち着かない思いがしたのですが、ラジオに出たり、雑誌に寄稿したり、私もこう見えて(どう見えるか分かりませんが)幅広く活動してきました。

皆さんも一人一人、それぞれがいろんな活動をしていると思います。そこで一年前の話になりますが、本校が書道の優秀校として全国で表彰されたことについて触れたいと思います。

昨年3月ですが全日本高等学校書道コンクールにおいて武雄高校は全国に居並ぶ書道の強豪校に食い込み、優秀校として表彰されました。最優秀は連覇中の佐賀北高校だったのですが、芸術科書道専攻という特別なカリキュラムを持つ学校ですから、本校とは建付けが異なります。そこに本校が食い込んだのがすごいことなんです。

その背景には書道部の皆さんの活動とともに、特に3人の生徒の活躍があります。一人は古川圓さん、一人は松本愛紅さん。この二人はこの春卒業した3年生、そしてもう一人は2年生の星本京香さんです。星本さんはこの3人の中で特に優秀ということで、書道界でも定評のある芸術新聞社賞を受賞し、この『墨』という雑誌に作品が掲載されているのです。なかなか一般の人には目に触れないけれどすごいことなので紹介しました。

この3人の中で星本さんは書道部ではありません。個人で活動しているんですね。皆さんの中には部活動はもちろんですが、個人で自主的に色々な活動に取り組んでいる人もたくさんいるだろうと思います。ピアノ、バイオリン、バトントワリング、日本舞踊等、2年生の吉田光里さんの高校生平和大使もその一つだと思います。

このように皆さん一人一人はそれぞれの分野に自分の強みを伸ばし生かせるよう主体的に取り組んでいるだろうと思います。それがスバラシイのです。これからも自分の強みを生かせる分野を探し、強みとしてさらに磨いてほしいと思います。頑張ってください。

さて、ここまでは前話です。ここからが私の最後の話です。

私はこの学校で2年間校長として仕事をさせていただきました。私の仕事のひとつは生徒

の皆さんに生きるヒントを語る事だと思って、こうした集会で話をしたり、定期的に『TAKE OFF press』という形で皆さんにメッセージを送ったりしてきました。今日はその最終回になります。

しかし本当は、生きるヒントを与えるなんて、そんな大それたことができるほど熟成した大人ではありません。ですから、最後は、皆さんにメッセージを送るというよりも、一人の特定した個人に向けて、言葉を送ることにします。皆さんはそれを傍らで聞くという体で聞いてください。

題して「60歳になった今の“僕”から、高校時代の“僕”へ」。

60になって思うのは、自分という人間がびっくりするほど未完成だということです。思っていた60歳とは全く違います。

論語に「子曰く、吾十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順い、七十にして心の欲する所に従へども矩を踰えず」（為政第2）とあります。

15歳で学問に志し、50歳で、天が自分に生きる意味を与え、何をすべきか理解できるようになった。60歳で、人の言葉を素直に聞き、すらすらと理解できるようになる。

そんなことは、全くありませんでした。残念ながら。そういう立派な人もきつっているのだと思います。しかし僕はそうではなかった。

この段階で未完成、いやほとんど完成していないということは、一体いつ完成するのでしょうか。さすがに最近少し心配になってきました。かくなるうへは100歳まで生き続けてみるしかありません。

それはさておき、今のあなたが悩んでいることについて話します。

人生とは何か、自分とは何か、将来への不安、人を愛するという事。それらは何一つ解決することなく、今も形を変えて継続中です。

ということは、今あなたが抱えている悩み以上のものに、この後の人生で遭遇するという事はないということです。悩んでも仕方ありません。どうです？ これで少しは気が楽になったでしょう？

そして、これからあなたはいろいろな挫折の経験を味わうことになります。進学だっですんなり希望どおりにはいきません。すっかり意気消沈、自信をなくしてしまうこともあるでしょう。それでもあなたは自分の道を歩いていきます。その挫折を経験として学ぶことで、より達観した境地に到達することができると思います。

でも、何か問題にぶつかった時、もっと泥臭くそれに関わることを勧めます。中途半端に投げ出してはいけません。後悔します。勉強にしても、友達関係にしても、恋愛にしても、とことんしがみついてください。しなかった後悔ほど引きずるものはありません。

そして、これからあなたはいろいろな人に出会うことになります。もちろんいい人もいればそうでない人もいます。ただし出会わなければよかったと思う人は一人もいません。大切なのはその人から何を感じ取るか。つまりあなた次第ということです。

仕事に関しては、これまたあたりまえですが、うまくいくこともあるし、うまくいかないこともあります。成功もするけど、それと同じくらい、いやそれ以上、失敗もします。

でもそれでいい。

「PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気を持った者だけだ」と言ったのはイタリアのサッカー選手、ロベルト・バジジョでした。

「挫折を知らない人間は挑戦したことの無い人間だ」といったのはアインシュタインです。

僕がこうした言葉を知ったのは教員になってからでした。もっと早く知っていればよかったと思ったので、今伝えておきます。恐れずに挑戦してください。失敗しても恥入ることはありません。明るく、人に「できんかったー」と笑ってください。前向きな人生につながります。

そして、いずれあなたは、家族を持ち父親になります。その瞬間、あなたは人生というドラマの主人公から、子どもが主演となったドラマの父親役に転じます。

そこにとっても違和感を味わいます。究極の“カマッテちゃん”のあなたは、物足りなく、いじけてしまうかもしれません。でもそれは実際そうならみればわかります。「それも悪くない」と。

教員生活もそうです。はじめは「自分を見てほしい!」「自分が教えるんだ!」と意気込みますが、それもつかの間、次第に、生徒一人一人が、自分と同じ人間だ、対等だという目線に変わっていきます。

こうしてあなたは自分が生まれてきた理由の一つを知ることになります。

この先、びっくりするようなことも起きれば、何も起こらない日もあります。でも総じてあなたの人生はおもしろい。少なくとも嫌になることなく、続けていけます。

長い人生であなたは太ったり痩せたりします。結婚をして子どもが生まれると太って貫禄が出てきます。でも職場が変わると、どんどん体重が落ちます。そして走ることの喜びを知ります。あれほど走ることが嫌いで、幼馴染から“いもやん”と呼ばれていたあなたは「シュッとなったね」と言われます。

でもこれだけは言っておきます。タバコは早めにやめた方がいい。かつてひと箱200円だったタバコも、今は約3倍の580円。小遣いが減ります。

それから、字が下手なあなたは、いつかは大人のような字が書けるのではないかと信じていますが、決してそんなことはありません。残念ですが、あなたの字は概ねそのままです。

60までにバイクで2回転んで、車を3回ぶつけます。気をつけてください。飼っていた犬が15歳で死にます。病院にこまめに連れて行ってやってください。

では最後に、「今日」と「これから訪れる未来」が、あなたにとって、いい日でありますように。

ということで、個人的な話を聞いてくれてみなさんありがとうございました。皆さんもこれからの高校生活頑張ってください。以上で私の話を終わります。